

様式第9

「KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）及びKHKS 0862 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）の制定について」に対するパブリックコメント（意見募集）の結果について

平成30年5月8日
耐震設計規格委員会
委員長 渡邊 鉄也

この度、耐震設計規格委員会が作成を行っている規格案KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）及びKHKS 0862 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）についてパブリックコメントを実施し、ホームページ上で広く皆様方のご意見を募集いたしました。

ご意見をお寄せいただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

今回寄せられたご意見及びそれらに対する考え方並びにその対応について、耐震設計規格委員会での審議の結果、別添のとおり取りまとめましたのでご高覧のほどお願い申し上げます。

1. 意見募集の結果

ご意見提出数：30件

2. 対応結果

今回いただいたご意見及びご意見に対する考え方・対応内容を別添（PDF形式）のとおり整理し、耐震設計規格委員会において審議の結果、了承されました。

以上

問合せ先：

高圧ガス保安協会 高圧ガス部 高圧ガス課
TEL: 03-3436-6103
FAX: 03-3438-4163
e-mail : hpg@khk.or.jp

「KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）及びKHKS 0862 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）の
制定について」に寄せられた意見に対する対応

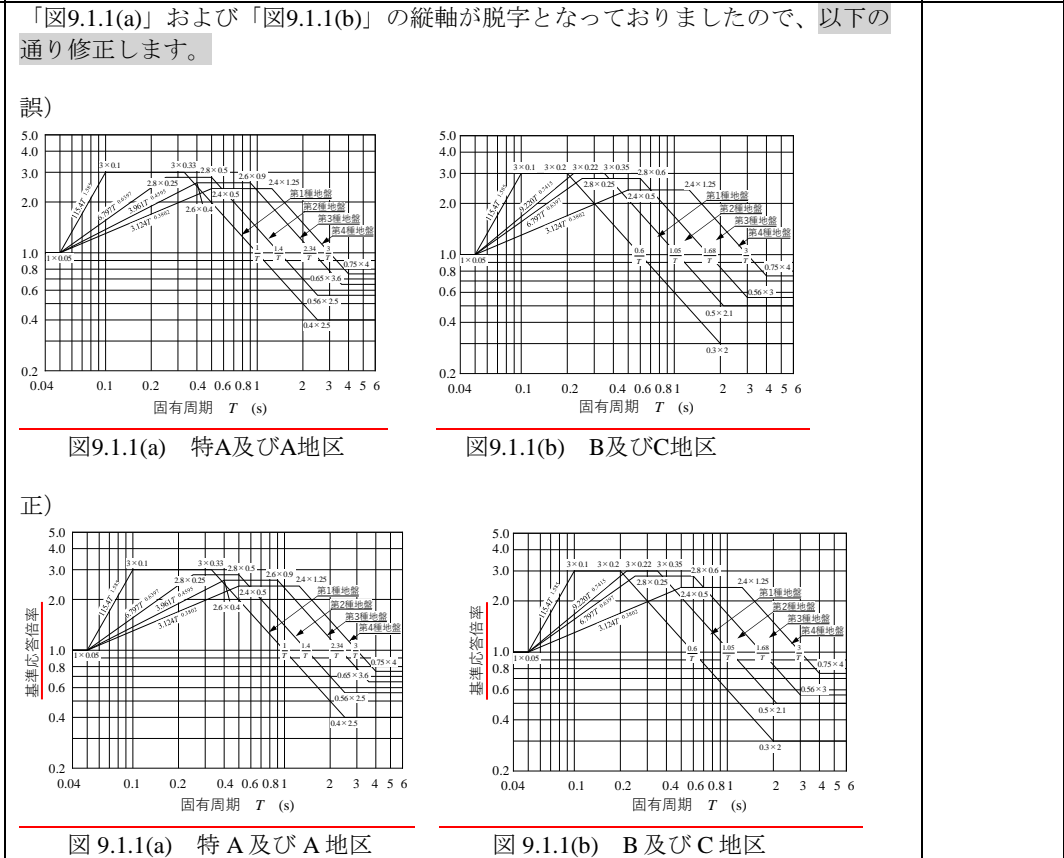
（注：ご意見及び理由並びにご意見に対する考え方・対応内容は、その趣旨、概要を取りまとめて示しています。）

整理 番号	提出されたご意見（理由）の内容	ご意見に対する考え方 対応内容	備 考
1	<p>【該当する規格案名及び箇所】 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1, 2） / KHKS 0861, 0862 制定以降の、現行の「高圧ガス設備等耐震設計指針」の扱いについて</p> <p>【意見及びその理由】 現行の「高圧ガス設備等耐震設計指針」の扱いは、どうなるのでしょうか？ 性能規定のコンセプトから外れるかもしれませんが、以下の理由により、現行の指針と同様の解説書は必要ではありませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ KHKSは性能規定のため、実務に必要な細かな解説、例示がされていない。 ▶ 新たにサイトスペシフィック地震動が導入されているが、例示がないと設計する側も審査する側も手探り状態となり、設計時間、コストが大きくなると考えられます。 	<p>KHKSは協会の技術基準のうち「規格」という位置づけとなっており、遵守すべき要求事項を示したものを「基準」としてしています。 本KHKSは現行の耐震告示と高圧ガス設備等耐震設計指針の「基準」に該当する部分をもとに作成しています。 今後、技術基準整備3ヶ年計画 (http://www.khk.or.jp/activities/technical_standards/dl/rolling_plan_H29-31FY.pdf) に従い、高圧ガス設備等耐震設計指針の解説や評価例等をもとに「技術文書（KHKTD）」を作成予定です。 サイトスペシフィック地震動に関しても、KHKTDにおいて、解説する予定となっています。</p>	
2	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS 0862 「4 耐震性能の評価」</p> <p>【意見及びその理由】 KHKS 0862 「4 耐震性能の評価」で、「ただし免震構造等の地震の影響の低減が図られる構造を有する耐震設計構造物にあつては、4.1から4.3の規定にかかわらず、3に規定する耐震性能を保有することを確認することによって替えることができる。」の記述がありますが、以下の項目についてご教示下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 免震構造等とは具体的にどのようなものを指すのですか？ ▶ 免震構造等でなければ、4.1から4.3の規定通りの評価が必要となるのですか？ <p>→ 地盤、基礎、高圧ガス設備の連成を考慮した動的シミュレーションの採用は不可でしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「4.1から4.3の規定にかかわらず、3に規定する耐震性能を保有することを確認する」の手法は、どのようなものを想定されていますか？ 	<p>「免震構造等」については、現在のところ具体的な例はありません。今後、具体例について検討させていただきたいと考えております。</p> <p>免震構造等でなければ、4.1から4.3の該当する規定によって評価することとしております。4.1から4.3の規定は、設計地震動は、5.によるとしておりますが、応答解析は適切な計算方法によれるとしております。時刻歴応答解析等による応答解析も選択可能であり、地盤、基礎、高圧ガス設備の連成を考慮した動的シミュレーションも採用可能です。</p> <p>「4.1から4.3の規定にかかわらず、3に規定する耐震性能を保有することを確認する」の手法のひとつとして、例えば、免震構造等によって、地震の影響が低減できる場合に、設計地震動を5.の規定によるものより低減した地震動を用いることなどが考えられます。</p>	
3	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861(201X)高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1） 1 頁「2用語の定義（10）第2種毒性ガス」 （「レベル2」も同様）</p> <p>【意見及びその理由】 平成28年11月の一般則等の省令改正にて、毒性ガスの定義が改められました。さらに</p>	<p>省令の毒性ガスの定義や、耐震告示の改正については、国の定めるところであり、本KHKSについては、現行の耐震告示となっております。今後、耐震告示が改正され、毒性ガスの定義が変更となった場合には、検討いたします。</p> <p>なお、第1種毒性ガス、第2種毒性ガス及び第3種毒性ガスは、省令で定める毒性ガスと別に定義されており、本KHKSにおいてもそのように規定しています。</p>	

「高圧ガス保安法及び関係政省令の運用及び解釈について（内規）」により、一般則やコンビ則上は塩化水素（毒物ではない）およびフッ化水素（ガス吸入で評価された毒物ではない）は毒性ガスより外れることになりました。一方、耐震告示は改正されず、これらのガスは第2種毒性ガスに位置付けられたままです。本基準の制定に合わせて耐震告示も改正され、第2種毒性ガスの定義も本基準に委ねられる模様ですので、これらのガスの扱い（第2種毒性ガスから外すもしくは耐震上の第2種毒性ガスに指定する）を本基準改正にて明確にしてください。

4 【該当する規格案名及び箇所】
 KHKS0861(201X)高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）
 18頁「図9.1.1(a)」および19頁「図9.1.1(b)」

【意見及びその理由】
 表の縦軸の説明がありません。



5 【該当する規格案名及び箇所】
 KHKS0861(201X)高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）
 20頁「式9.3」および「式9.4」

【意見及びその理由】
 式が従来（現在の耐震告示）の式と異なります。

「式9.3」および「式9.4」は誤表記であるため、以下の通り修正します。

誤)

$$T = \sqrt{\frac{CH_t}{K_{MH}D_m}} \quad [式9.3] \quad T = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}} \quad [式9.4]$$

正)

		$T = \frac{CH_t}{\sqrt{K_{MH} D_m}} \quad \text{[式 9.3]} \quad T = \frac{2}{\lambda} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}} \quad \text{[式 9.4]}$	
6	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 2.用語の定義 (15)後段 「元弁の直近に接続される逆止弁についても、地震時に遮断効果が有るので、同様に取り扱う。」</p> <p>【意見及びその理由】 元弁と逆止弁間が破損した場合は、遮断効果が望めないので、流れ方向依存の遮断弁にしかならないと思われます。</p>	<p>本規定は耐震告示及び関連通達に基づいており原案のままとします。 頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>	
7	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 2.用語の定義 特定設部検査規則の記載が無い</p> <p>【意見及びその理由】 一般則及びコンビ則の規定中に含まれるが、耐震基準には記載されており削除する積極的な理由が見当たらない。</p>	<p>特定設備検査規則の記載は耐震告示にもありませんので、原案のままとします。</p>	
8	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 7.1 耐震設計設備の設計地震動に基づく応答解析 注1) a)適切な入力地震波</p> <p>【意見及びその理由】 あまりに古い地震波を参照しているので、最近の知見を元にした見直しを望ましいと思われれます。</p>	<p>本規定は耐震告示及び関連通達に基づいており原案のままとします。 頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>	
9	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 2.用語の定義 (11)第3種毒性ガス 毒性ガスであって、(10)及び(11)に掲げる以外のもの</p> <p>【意見及びその理由】 (11)は自分自身の項につき(9)及び(10)とすべき</p>	<p>誤記のため、以下のとおり修正します。 誤) 「(10)及び(11)」 正) 「(9)及び(10)」</p>	
10	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 2.用語の定義 (11)第3種毒性ガス 毒性ガスであって、(10)及び(11)に掲げる以外のものとするが、改定された高圧ガス保安法と定義が合わない</p> <p>【意見及びその理由】 混乱の元となるため、高圧ガス保安法の定義と合致させる必要があると思われれます。</p>	<p>第3種毒性ガスは、掲名しているガス及び高圧ガス保安法の毒性ガス（本KHKSで第1種毒性ガス及び第2種毒性ガスとして掲名しているものを除く）としており、本KHKSにおいて第1～3種毒性ガスは、高圧ガス保安法の毒性ガスとは別に定義しているものです。 各省令においては、毒性ガスであるか否かで高圧ガス設備等に耐震設計が要求されているわけではなく、寸法や貯蔵能力などを基準に耐震設計が要求されています。本KHKSの第1～3種毒性ガスは耐震設計の要否を判断するものではなく、高圧ガス設備等の耐震設計における重要度を決定するものであり、高圧ガス保安法の毒性ガスの定義と異なることでの矛盾は生じません。よって、原案のままとします。</p>	
11	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 全般 参照規格年度が全て古い</p> <p>【意見及びその理由】 積極的な年度指定以外は最新版年度を指定し、年度指定規格と区別する必要があると思われれます。</p>	<p>本規定は耐震告示及び関連通達に基づいており原案のままとします。 頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>	
12	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 9.1.2 耐震設計設備の固有周期</p>	<p>式9.3は誤表記であるため、以下の通り修正します。</p>	

	<p>$T = \sqrt{\frac{CH_t}{K_{MH}D_m}}$は指針の式と異なる。 【意見及びその理由】 指針耐震設計設備基礎編 1.2.3.1 スカート支持の自立式の塔類 (1) $T = \frac{CH_t}{\sqrt{K_{MH}D_m}}$とすべきと思われます。</p>	<p>誤) $T = \sqrt{\frac{CH_t}{K_{MH}D_m}}$ 正) $T = \frac{CH_t}{\sqrt{K_{MH}D_m}}$</p>	
13	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 9.2 注1) 表9.2 及び18.3.2 固有振動数20ヘルツ未満の弁指針では評価を省略できる旨記載が有る。 【意見及びその理由】 評価省略可能の記載がないと何のために20ヘルツ未満を区別しているのか意味が不鮮明ではないでしょうか。(現基準は注記が無い)</p>	<p>表記抜けであるため、以下の通り修正します。 誤) 「固有振動数20Hz以上の判定については、...」 正) 「算定応力による評価を省略できる。固有振動数20Hz以上の判定については、...」</p>	
14	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 10.1.2 式10.3 が指針レベル 2 解説編P15と異なる。 $R = \sqrt{\sum_i \{R^{(i)}\}^2}$ 【意見及びその理由】 $R = \sqrt{\sum_i (R_i)^2}$ R_iの2乗とRのi乗の2乗読めてしまいます。 (現基準は上の表記)</p>	<p>KHKS0861 10.1.2 式10.3の$R = \sqrt{\sum_i \{R^{(i)}\}^2}$は耐震告示と同じ表記であるため、原案のままとします。 KHK指針については表記を今後修正させていただきます。 なお、KHKS0862 B.4.1 [式B.4-3]はKHKS0861 10.1.2 式10.3と同じ数式ですが表記が異なるため、表記を以下の通り修正します。</p> <p>修正前) $R = \sqrt{\sum_i R_i^2}$ 修正後) $R = \sqrt{\sum_i \{R^{(i)}\}^2}$ ここで、R_iは... ここで、$R^{(i)}$は...</p>	
15	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 14.1 c) 曲げ応力 式14.5と式14.6がともにσ_Gとなっている。 【意見及びその理由】 式14.6はσ_oの誤りと思われます。</p>	<p>誤字であるため、以下の通り修正します。 誤) $\sigma_G = \frac{ M_{O1} - M_{O2} }{Z_{CU}}$ 正) $\sigma_o = \frac{ M_{O1} - M_{O2} }{Z_{CU}}$</p>	
16	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0861 9.1.3 c),d) 震度分布係数μが架構の高さ10m未満の場合は1.0としているのに対し、9.2 μ 1)では支持構造物の高さが10m以下・・・としており高さ10m丁度のものに対し矛盾しています。 【意見及びその理由】 10m未満とするか、10m以下とするか統一が望ましいと思われます。</p>	<p>以下の通り修正します。 修正前) 「配管支持構造物の高さが10m以下のもの...」 修正後) 「配管支持構造物の高さが10m未満のもの...」</p>	
17	<p>【該当する規格案名及び箇所】 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準 (レベル1) KHKS 0861(201X) (案) P.3 3.1 地震防災遮断弁で区切られた間の配管の内容積の算定例 この場合、管、伸縮継手、弁等の... 【意見及びその理由】 『この場合』の主語が不明確である。 高圧ガス設備等耐震設計指針(2012) レベル1耐震性能評価 (配管系) 編と同様に前文該当箇所『地震防災遮断弁で仕切られた間の配管の内容積の算定を例示すると(a)~(c)のとおりである。』を追記すべきではないでしょうか？</p>	<p>以下の通り、修正します。 修正前) 「この場合、...」 修正後) 「地震防災遮断弁で仕切られた間の配管の内容積の算定を例示するとa)~c)のとおりである。この場合、...」</p>	
18	<p>【該当する規格案名及び箇所】 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準 (レベル1) KHKS 0861(201X) (案)</p>	<p>式9.4は誤表記であるため、以下の通り修正します。</p>	

	<p>P20. 9.1.2 耐震設計設備の固有周期 b)平底円筒形貯槽 $T = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$</p> <p>【意見及びその理由】 高圧ガス設備等耐震設計指針(2012) レベル1耐震性能評価 (耐震設計設備・基礎) 編 P66. 1.2.3.2 平底円筒形貯槽 における式と相違があります。 $T = \frac{2}{\lambda} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$ の間違いではないでしょうか?</p>	<p>誤) $T = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$</p> <p>正) $T = \frac{2}{\lambda} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$</p>	
19	<p>【該当する規格案名及び箇所】 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準 (レベル1) KHKS 0861(201X) (案) P28. 9.2 配管系の修正震度法による応答解析 μKMHの説明文『(前略) 配管支持構造物の応答解析の種類に応じて次のa)からb)の規定するものとする。』 【意見及びその理由】 応答解析は『a) 修正震度法』『b) モード解析法及び時刻歴応答解析法』『c) 静的震度法』の三区分で提示されている為、『(前略) 配管支持構造物の応答解析の種類に応じて次のa)からc)に規定するものとする。』の誤記であると思われる。</p>	<p>誤記であるため、以下の通り修正します。</p> <p>誤) (前略) 配管支持構造物の応答解析の種類に応じて次のa)からb)の規定するものとする。</p> <p>正) (前略) 配管支持構造物の応答解析の種類に応じて次のa)からc)の規定するものとする。</p>	
20	<p>【該当する規格案名及び箇所】 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準 (レベル1) KHKS 0861(201X) (案) P58. 18.6 配管支持構造物 (塔槽類及び架構等に支持される配管支持構造物を除く。) 【意見及びその理由】 高圧ガス設備等耐震設計指針(2012) レベル1耐震性能評価 (配管系) 編 P88. 2.9.1(6)に『重要度がⅡ及びⅢの配管にあって、告示17条による配管支持方法による耐震性能評価を行う場合、当該配管に係る配管支持構造物及びその基礎のレベル1耐震性能評価は省略することができる。』と記載がありますが、当該基準には記載が無く、許容スパン法で評価した配管系の支持構造物も全て評価することになってしまいます。現行通り、許容スパン法で評価した配管系の支持構造物及び基礎のレベル1耐震性能評価は省略可の記述をお願い致します。</p>	<p>5.2 c)で規定しているため、原案のままとします。</p>	
21	<p>【該当する規格案名及び箇所】 規格名：KHKS0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準 (レベル1) 7.3 b 配管系の応答解析 【意見及びその理由】 「また、重要度ⅡまたはⅢに係わる配管本体の応答解析は、修正震度法、モード解析法または時刻歴応答解析法により行う必要がある・・・」の文章が、現行基準より追加になっていますが、S0861基準制定にあたり、許容スパン法での配管評価は廃止になるとのことでしょうか。廃止とならない場合は、許容スパン法での評価実施でも可の旨を記述お願い致します。</p>	<p>7.3は5.2 a)の規定に基づく配管の評価です。許容スパン法での配管評価は5.2 c)で規定しています。</p>	
22	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862 2.用語の定義 (15)後段 「元弁の直近に接続される逆止弁についても、地震時に遮断効果が有るので、同様に扱う。」 【意見及びその理由】 元弁と逆止弁間が破損した場合は、遮断効果が望めないため、流れ方向依存の遮断弁にしかならないと思われます。</p>	<p>本規定は耐震告示及び関連通達に基づいており原案のままとします。 頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>	
23	<p>【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862付属書A (参考) 修正震度算出法 [図A.1-1]特A及びA地区に加えB及びC地区</p>	<p>図A.1-1の基準応答倍率曲線は、地区の区分によるものではありませんので、原案のままとします。</p>	

<p>の基準応答倍率も図示又は注記が必要と思われます。</p> <p>【意見及びその理由】 修正震度法適用時の基準応答倍率が、レベル1と異なり特A、A地区、B地区、C地区の区分に依らず全て[図A.1-1]で示されるのであれば、その旨注記を入れた方が良いと思われます。</p>	<p>注記については、今後、解説等を作る際の参考とさせていただきます。</p>	
<p>24 【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862 [C.2.2.4]レグ取付部の損傷モードにかかわる降伏震度 (b) [式C.2-36] $M = \frac{M_x \sqrt{R_m t}}{i_{s2}}$ となっています。</p> <p>【意見及びその理由】 $M = \frac{M_x \sqrt{R_m t_h}}{i_{s2}}$ tがthの誤りと思われます。</p>	<p>誤表記であるため、以下の通り修正します。</p> <p>誤) $M = \frac{M_x \sqrt{R_m t}}{i_{s2}}$ 正) $M = \frac{M_x \sqrt{R_m t_h}}{i_{s2}}$</p>	
<p>25 【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862 [C.2.5.1]レグ支持塔 (2)レグの損傷 ⑤及び⑦が$\mu_{pa}=1.0$となっています。</p> <p>【意見及びその理由】 $\mu_{pa}=0.35$ の誤りと思われます。</p>	<p>誤表記であるため、以下の通り修正します。</p> <p>誤) ⑤レグの圧縮応力及び曲げ応力の組合せによる損傷 $\mu_{pa}=1.0$ ⑦レグの圧縮応力、曲げ応力及びせん断応力の組合せ $\mu_{pa}=1.0$</p> <p>正) ⑤レグの圧縮応力及び曲げ応力の組合せによる損傷 $\mu_{pa}=0.35$ ⑦レグの圧縮応力、曲げ応力及びせん断応力の組合せ $\mu_{pa}=0.35$</p>	
<p>26 【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862 [C.3.2.7]ハブ-スプレートの損傷モードに係る降伏震度 (2) [式C.3-70]が $\sigma_{TE} = 6 \left\{ \frac{1}{n} \left[F_V + \frac{4F_H H_C}{D_B} \right] \right\} \frac{L'}{n_a(D_a - 2L')t^2}$ となっています。</p> <p>【意見及びその理由】 $\sigma_{TE} = 6 \left\{ \frac{1}{n} \left[F_V + \frac{4F_H H_C}{D_B} \right] + 0.67C_4 S_H \tan \theta \right\} \frac{L'}{n_a(D_a - 2L')t^2}$ の誤りと思われます。</p>	<p>KHK指針の式 $\sigma_{TE} = 6 \left\{ \frac{1}{n} \left[F_V + \frac{4F_H H_C}{D_B} \right] + 0.67C_4 S_H \tan \theta \right\} \frac{L'}{n_a(D_a - 2L')t^2}$ が誤りであり、原案のままとします。KHK指針については、今後修正いたします。</p>	
<p>27 【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862 [C.5.2.1]側板座屈に係る降伏震度 (1) [式C.5-5] が $\sigma_{E1H} = \frac{4 \left(1 - \frac{h}{H_1} \right)^2 (W_r H_r + W_s H_s + W_1 H_1)}{\pi D^2 t}$ となっています。</p> <p>【意見及びその理由】 $\sigma_{E1H} = K_{MH} \frac{4 \left(1 - \frac{h}{H_1} \right)^2 (W_r H_r + W_s H_s + W_1 H_1)}{\pi D^2 t}$ の誤りと思われます。</p>	<p>誤表記であるため、以下の通り修正します。</p> <p>誤) $\sigma_{E1H} = \frac{4 \left(1 - \frac{h}{H_1} \right)^2 (W_r H_r + W_s H_s + W_1 H_1)}{\pi D^2 t}$</p> <p>正) $\sigma_{E1H} = K_{MH} \frac{4 \left(1 - \frac{h}{H_1} \right)^2 (W_r H_r + W_s H_s + W_1 H_1)}{\pi D^2 t}$</p>	
<p>28 【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862 [C.5.4.3] 設計地震動によるアンカストラップの引張降伏に係る許容塑性率 [式C.5-47] $T = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$ となっています。</p> <p>【意見及びその理由】 $T = \frac{2}{\lambda} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$ の誤りと思われます。</p>	<p>誤表記であるため、以下の通り修正します。</p> <p>誤) $T = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$ 正) $T = \frac{2}{\lambda} \sqrt{\frac{W_0}{\pi g E t_{1/3}}}$</p>	
<p>29 【該当する規格案名及び箇所】 KHKS0862 [C.5.4.4]液面揺動の設計地震動によるアンカストラップの引張応力に係る許容塑</p>	<p>誤表記であるため、以下の通り修正します。</p>	

	<p>性率[式C.5-50] が</p> $\mu_{pa} = \frac{\pi_a q_y R}{K_{yAY_2}^2 (W_s + W_r + W_2) g} \left(\frac{2\pi}{T} \right)^2 \frac{0.617 t_b S_{yb}^2}{E_a P_b}$ <p>と有ります。</p> <p>【意見及びその理由】</p> $\mu_{pa} = \frac{\pi_a q_y R}{K_{yA_2}^2 (W_s + W_r + W_2) g} \left(\frac{2\pi}{T} \right)^2 \frac{0.617 t_b S_{yb}^2}{E_a P_b}$ <p>の誤りと思われます。</p>	<p>誤) $\mu_{pa} = \frac{\pi R_a q_y}{K_{yAY_2}^2 (W_s + W_r + W_2) g} \left(\frac{2\pi}{T} \right)^2 \frac{0.617 t_b S_{yb}^2}{E_a P_b}$</p> <p>正) $\mu_{pa} = \frac{\pi_a q_y R}{K_{yA_2}^2 (W_s + W_r + W_2) g} \left(\frac{2\pi}{T} \right)^2 \frac{0.617 t_b S_{yb}^2}{E_a P_b}$</p>	
30	<p>【該当する規格案名及び箇所】</p> <p>KHKS0862 [C.2.5.1]レグ支持塔 (2)レグの損傷 ⑤及び⑥ が $\mu_{pa}=1.0$ となっています。</p> <p>【意見及びその理由】</p> <p>$\mu_{pa}=0.35$ の誤りと思われます。</p>	<p>⑤は誤表記であるため、以下の通り修正します。</p> <p>誤) ⑤レグの圧縮応力及び曲げ応力の組合せによる損傷 $\mu_{pa}=1.0$</p> <p>正) ⑤レグの圧縮応力及び曲げ応力の組合せによる損傷 $\mu_{pa}=0.35$</p> <p>⑥は $\mu_{pa}=1.0$ が正であり、原案のままとします。</p>	